

【論文】

大工利光家文書（そのⅦ）

佐藤正彦*

On Records of the Carpenter Toshimitsu Family's Possession (Part VII)

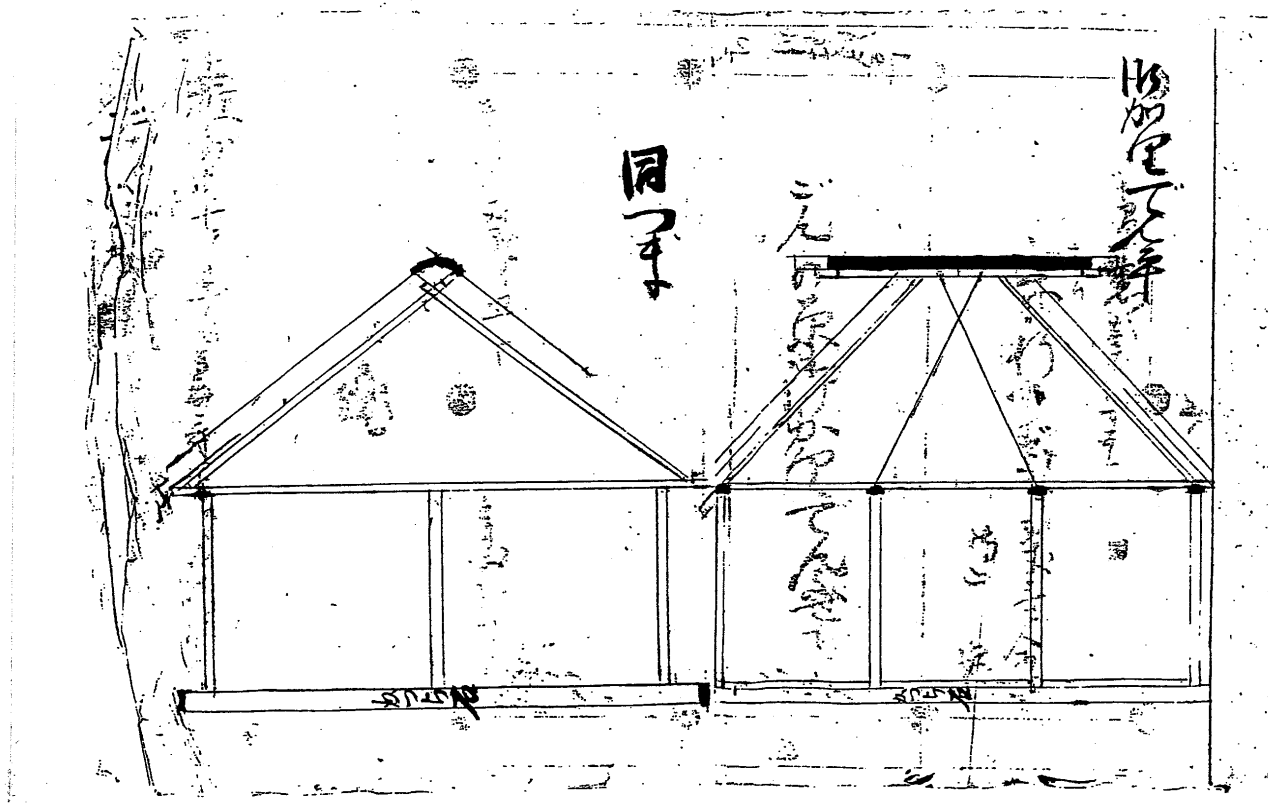
Masahiko SATO

Abstract — This thesis described on the records of the carpenter Tosimitu Family's Possession in Oita-city.

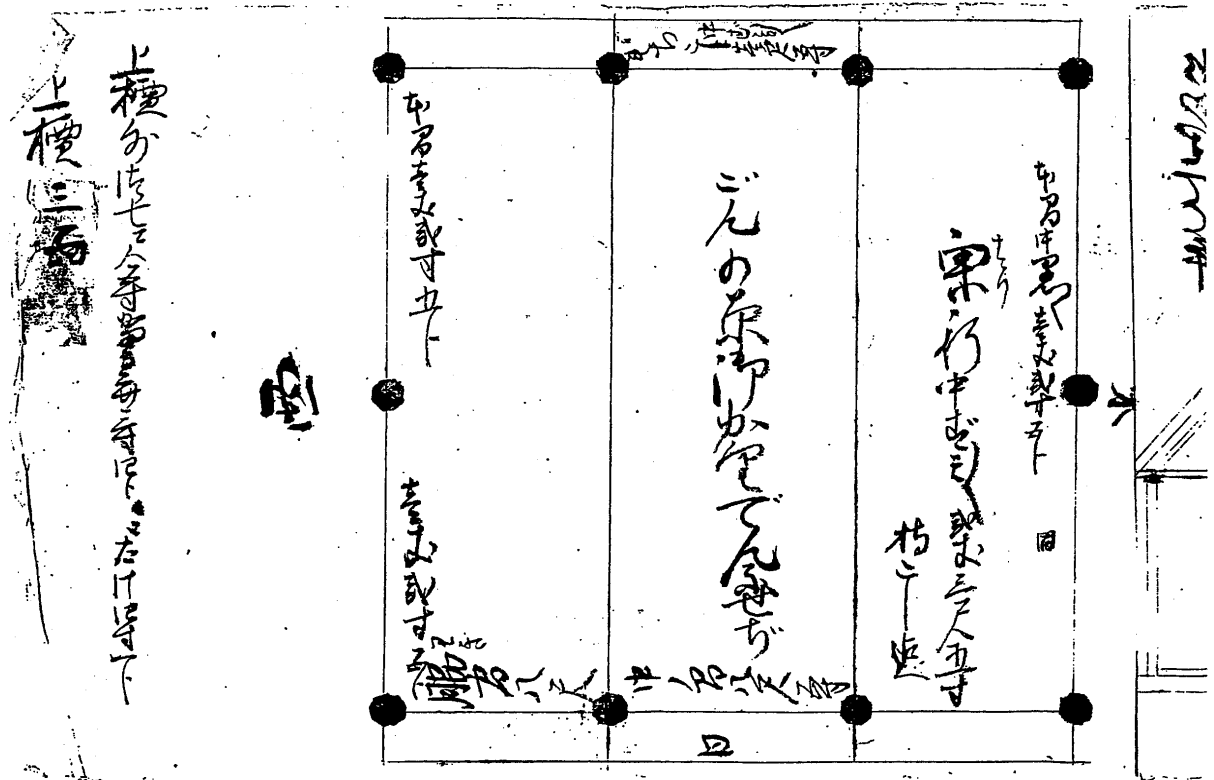
Keywords : carpenter Tosimitu , Oita-city, recent times, carpenter's record.

100
 延享元^甲子^子歳
 ①
 ごんでの原かりでん
 六月十八日

②
 御加里でん坪
 ごんの原御加里でんふせす
 同つま
 かつら石
 かつら石



*建築学科



③

東

本間中墨壹丈貳寸五歩 同

梁行 中ず 貳丈三尺五寸 持こし迄

ごんの原御かりでんふせぢ

本間壹丈貳寸五歩

もち沖ずミこし壹尺五寸

中間八尺五寸

同

本間壹丈貳寸五歩

壹丈二寸五歩

脇間八尺

西

上檜外つら七尺五寸□□□□三寸四歩□□たけ四寸歩上檜 三□

106 [1]

文久三亥年

光西寺御座敷

着到帳

正月十八日 棟梁利光氏

[4]

ごんでの原御か里てん

- 一桁行中ノ間八尺五寸脇ノ間八尺中すミより中ずミまで
 - 一梁中すミニ二丈三尺五寸もちこ志中すミ壹尺五寸
 - 一高サかつら右上ハる梁下ハ迄壹丈五寸称入三尺
 - 一いか高サ追右右ハるよせ□居上ハ迄五寸
 - 一平さす長サ壹丈六尺かつ□居上ハ迄
 - 一つまさす長サ
 - 一むこをさす長サ
 - 一棟木長サ壹丈四尺つまさすのミより棟木
- 下ハニて外ノり五尺五寸

今者壹丈四尺

延享元甲子甲年

[5]

ごんでの原ざい木寛

御か里でん

- 一柱数拾本 (長サ壹丈四尺五寸 末口六寸)
- 一梁数四本 (長サ二丈五尺 末口四寸)
- 一桁数式本 (長サ式丈六尺 末口四寸)
- 一平さす数四本 (長サ壹丈七尺 つまさす式本 末口四寸)
- 一むこうさす数式本 (長サ壹丈七尺 末口三寸)
- 一棟木数壹本 (長サ壹丈四尺 末口四寸)

阿らざいもくつもり

[2]

森太良	徳兵衛	九兵衛	次右衛門	重右衛門	平右衛門	小正月	
×	×	×	×	×	×	十六	一
×	×	×	×	×	×	十七	二
○	○	○	○	○	○	十八	三
×	×	×	×	×	×	十九	四
						廿	五
						廿一	六
						廿二	七
						廿三	八
						廿四	九
						廿五	十
						廿六	十一
						廿七	十二
						廿八	十三
						廿九	十四
						卅	十五

[6]

卯ノ年酉ノ年ニ立申等御座候ノ右ノ年ノ間ニ子ノ年午ノ年ニ柱かへ御座候ノ寛保三年

- 延享元年 八月十三日乃大かぜニころび申候□
- 六月十八日取付□廿三日ニ立申候工数二十八工き
- わまり小八月ニ立なおり申候 八工
- 八月□□□□□□申候
- 恵んわ立なをるせつニ壹つ出来申候
- 壹つの恵んおなをりニもちい申候
- 御普請其□□□□御普請□か□□
- 数むしる拾式枚参り申候
- 道具□杉□□御□付□□□□か取□申候
- 軒十間の□□□原かま申候
- 調□かつ□くま□申候

重右衛門	廿二工	平右衛門	廿四工	大二月		惣ノ拾工	善作	今朝松	卯太郎	嘉作
				十六	一					
○	○	○	○	十六	一	×		×	×	×
○	○	○	×	十七	二	×		×	×	×
×	×	×	×	十八	三	○		○	○	○
×	×	×	○	十九	四	×		×	×	×
□	×	○	○	廿	五					
○	×	○	○	廿一	六					
○	○	○	○	廿二	七					
○	○	○	○	廿三	八					
○	×	○	×	廿四	九					
○	○	○	○	廿五	十					
○	○	○	○	廿六	十一					
○	●	○	○	廿七	十二					
○	○	○	○	廿八	十三					
○	○	○	×	廿九	十四					
○	○	○	○	卅	十五					

嘉作	二工	徳兵衛	七工	森太郎	拾五工半	小三郎	三工	林蔵	儀右衛門	八工半	次郎右衛門	六工
×	○	×	×	×	×			×	×			×
×	×	×	×	×	×			○	×			×
×	×	×	×	×	×			×	×			×
×	×	□	×	×	×				×			×
×	×	○	×	○	○				○			×
×	×	○	×	□	○				○			×
×	×	×	×	×	×				○			○
×	×	×	×	×	×			×	○			×
×	×	×	○	○	○			⊗	○			×
×	×	×	○	○	○			○	□			×
×	×	×	○	○	○	×		×	×		×	×
×	×	×	×	□	○			×	○		○	×
×	×	×	○	○	×	○		○	○		×	
×	×	×	○	○	○	○		×	○		○	

儀右衛門	拾七工	廿六工	廿六工	善工	三工	四工	十三工半	廿三工	廿三工
○	×	○	○	×		×	○	×	○
○	×	○	○	×		×	○	×	○
○	×	○	×	×		×	□	×	×
×	×	×	○	×		×	×	×	×
○	×	○	○	×		×	×	×	○
○	×	○	□	×		×	○	×	○
○	×	○	○	×		×	×	×	○
○	×	○	○	○		○	○	○	□
○	×	○	×	×		×	○	×	○
⊗	×	○	○	×		×	×	○	○
○	×	○	○	×		×	×	○	○
○	×	○	○	×	×	×	×	○	○
○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
○	○	○	○	×	○	○	×	○	○

儀右衛門	廿六工	次郎右衛門	八工	重右衛門	廿廿工半	平右衛門	卅世工	三月		善工半	五工
								金作	浅吉		
×	○	×	○	○	○	○	○	十六	一	×	×
○	○	×	○	○	○	○	○	十七	二	×	百
○	○	×	□	□	○	○	○	十八	三	×	八
○	○	×	○	○	○	○	○	十九	四	×	拾
○	○	×	□	○	○	○	○	廿	五	×	壹
○	○	×	○	○	×	○	○	廿一	六	×	工
○	○	×	○	○	×	○	○	廿二	七	×	半
○	○	×	○	○	○	○	○	廿三	八	×	○
○	○	×	○	×	□	○	○	廿四	九	○	○
○	○	×	×	×	○	○	○	廿五	十	×	×
○	○	×	×	×	○	○	○	廿六	十一	□	×
○	○	×	×	×	○	○	○	廿七	十二	×	×
○	□	×	×	×	○	○	○	廿八	十三	×	○
○	×	×	×	○	○	○	○	廿九	十四	×	○
○	×	×	×	○	○	○	○	卅	十五	×	○

廿六工 平右衛門	五月		武工 嘉作	四工 按太郎	二工 峯太郎	二工 今朝太郎	二工 熊吉	五工
	一	二						
×	○	十六	×	○	○	○	○	○
○	×	十七	○	○	○	○	○	○
○	×	十八	○	○	×	×	○	○
○	○	十九	×	○				○
○	×	廿		×				○
○	○	廿一	九拾五束					×
○	○	廿二						×
○	⊗	廿三						×
○	○	廿四						×
○	○	廿五						×
○	○	廿六					×	
○	○	廿七					×	
○	○	廿八					×	
○	○	廿九		×			×	
○	○	三十		○			×	
○	○	卅一		○			×	

四工 嘉作	八工 与吉	六工 官次郎	九工 善作	十三工 銚次	儀右衛門	廿七工束	廿四工 重右衛門
	×	×	×	●	×	○	○
	×	×	×	×	○	○	○
	×	×	○	○	○	○	○
	×	×	○	○	○	○	○
	×	×	○	○	○	×	×
	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○
万	○	○	×	○	×	○	○
十	○	○	×	○	×	○	⊗
七	×	○	×	×	×	×	○
	○	○	×	○	×	○	○
	×	×	○	×	×	○	○
	○	×	○	○	○	○	○
	○	×	○	○	○	○	○
	○	×	○	×	○	○	○
	○	×	○	×	○	○	○

五工 善作	十工 銚次郎	十四工 嘉右衛門	十七工 儀右衛門	十八工 重右衛門	十二工 平右衛門	六月	
						一	二
×	○	×	○	×	○	十六	一
×	○	×	○	×	×	十七	二
×	○	×	○	○	○	十八	三
×	○	×	○	○	×	十九	四
×	○	×	○	○	○	廿	五
×	○	×	○	○	×	廿一	六
×	×	×	○	○	○	廿二	七
×	×	×	○	○	×	廿三	八
×	×	×	○	○	○	廿四	九
×	×	×	×	×	×	廿五	十
×	×	×	×	○	○	廿六	十一
×	×	×	×	○	○	廿七	十二
×		×	○	×	×	廿八	十三
×		×	×	×	×	廿九	十四
×		×	×	×	×	卅	十五

十六工 惣右衛門	嘉右衛門	拾工 儀右衛門	拾工 重右衛門	拾二工 平右衛門	拾八工 重右衛門	七月		八工半 与吉
						一	二	
×	○	×	○	×	○	十六	一	×
×	×	○	○	○	⊗	十七	二	×
×	×	○	○	○	⊗	十八	三	○
×	×	○	×	○	○	十九	四	○
×	○	○	○	○	○	廿	五	○
×	○	○	○	○	⊗	廿一	六	○
×	○	○	○	○	⊗	廿二	七	×
×	○	○	×	○	○	廿三	八	○
×	○	×	×	○	○	廿四	九	○
	○	○	×	○	⊗	廿五	十	○
	○	○	×	○	⊗	廿六	十一	○
	○	×	×	○	○	廿七	十二	⊗
	×	×	○	×	○	廿八	十三	×
	×	×	○	×	○	廿九	十四	×
	×	×	○	×	○	卅	十五	×

ノ五工 与吉	ノ五工 徳兵衛	ノ五工 儀右衛門	ノ五工 平右衛門	十二月	十六	一	ノ四工 与吉	ノ七工 徳兵衛	20
					十七	二	ノ四工 与吉	ノ七工 徳兵衛	
					十八	三			
					十九	四			
					廿	五			
					廿一	六			
					廿二	七			
廿				惣ノ式百廿二工	廿三	八			
工					廿四	九			
					廿五	十			
					廿六	十一			
					廿七	十二			
					廿八	十三			
					廿九	十四			
					卅	十五			

25

元治二乙年二月四日

- 一、八工平右衛門
- 一、五工重右衛門
- 一、七工森太良
- 一、八工長太良
- 一、式工与吉
- 一、七工半八

ノ四拾式工

惣ノ千三百七工

五拾五工

- 立前五百八拾三工
- 惣ノ千式百五拾五工の内
- 五百八拾壹工引のこり
- 五百八拾壹工をさく
- 七百廿四工
- 亥年正月十八日新立
- 二月十四日とまりこみ
- 柱立三月十五日
- 棟上三月廿四日
- 十二月
-
-

※数字は利光家文書の番号。□内数字は頁を示す。
 ※本稿は、平成 17・18 年度文部科学省科学研究補助
 金（基盤研究（C）課題番号 17560578）による。